

「青少年のスマホ・ネット問題の改善に向けたワークショップの実施」 (CAPおかやま)

《テーマ・目的》

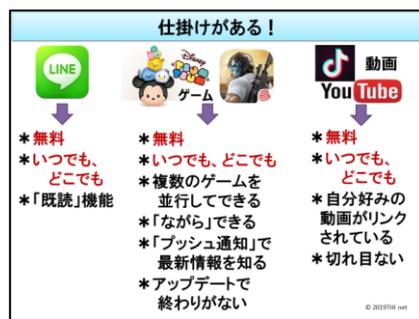
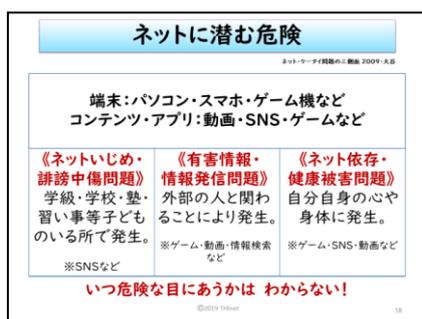
青少年のスマホ・ネットに関する問題は、ここ数年、いじめ等の人間関係のトラブルの原因となるだけでなく、普段は知り合えない「大人」と関わることによる有害情報との接触、健康被害・依存症の発症など、多岐にわたる。また、今年度は、コロナウィルスによる感染予防のために、オンラインでの授業やステイホームにより、自宅時間が増加し、スマホ・ネット環境に触れる時間が増大している。青少年が、こうした問題を学ぶ機会に恵まれないまま、慣れ親しみ、被害や加害に関係してしまう事例も報告されている。

本事業では、彼らが陥りやすい課題「なぜ依存症になるまでやってしまうのか」を、社会問題として、あるいは思春期ならではの課題や、自分とネットとの関係を振り返ることで、自分自身の心身を大切に思い、「ネットコントロールしよう!」と行動の変容がしやすい環境を整えることを目的とする。

《事業内容》

1. 「スマホ・ネット問題の改善に向けたワークショップの改正」

各種学校での実態や課題を聞きながら、より分かりやすく、行動変容が期待できるように改善。



2. 「スマホ・ネット問題の改善に向けたワークショップの実施」

- ・吉備高原希望中学校全学年(20名・1/27 実施)
- ・岡山市立御津中学校2学年(46名・1/29 実施)
- ・南野育成園中高生(20名・2/7 実施予定)



《成果・効果》

生徒86名、教職員32名の参加を得て、開催。

何が課題か、なぜやめることができなくなるのか、個人の課題・社会の課題(企業側の狙いや子どもたちが暮らす環境等)について、我が事として考えることができたようだった。

また、おとなは、おとなの責任や役割、子どもにだけ責任を押し付けるのではなく、スマホ・ネットとどう関わっていくかを再考する機会となった。

《評価》

受講後、生徒・教職員にアンケートを実施した。

A:よくわかった B:大体わかった C:あまり分からなかった D:全く分からなかった

生徒	A	B	C	D
ネットの何が危険なのか!	48	20	1	0
なぜ、はまってしまう?	47	21	1	0
今と未来に向けて…	36	29	4	0

教職員	A	B	C	D
児童生徒の実態に沿ったものでしたか?	9	4	0	0

多くの生徒・教職員がよくわかった・大体わかったと答えているが、自由記述には、「自分でもセーブできるようにしたい。危険だと思っていなくてもついしてしまう。なぜはまってしまうのか、楽しさもあるし、現実の生活面の原因もあると知り、本当に怖いなと思った。」「スマホやゲームを始めてから視力が

とても落ちたので、休もうと思っていたけれど、今日の話聞いて、本当に少しずつ減らしていこうと思う。」「違うことで時間を過ごしたり、家族とも話したりして工夫していきたい。」「自分の依存度は今は0%だけれど、いつ依存してしまうのかわからないので、どの情報なら安心なのかを常に考えたい。」「愛着障がいの子にとって、謝っていただけことが救いになります。」等の声が寄せられた。「おとなは口だけでなく手本となる姿を見せなければならない。」「早い時期…幼児・児童期からの親を含めた啓発が必要。」等の課題も挙がっている。

《今後の改善点》

内容的には、評価を得た事業だが、メディア関連の技術や内容は日進月歩で進み、ネット依存は人類史上初の低年齢から発症する依存症とされ、治療や回復の道筋も未だ確立していない。さらに、予防啓発についてはほとんど取り組まれていない状況である。新しい情報を得ながら、対応策を考え、今後も時代に合ったプログラムとなるよう、継続的な開発・改善が必要である。

また、「おとなの姿勢」の変容促進や低年齢者を含めた全ての人への段階的な「啓発」の取組みも喫緊の課題である。いずれにしても、少しでも早い適切な対応が求められている。次年度は、本プログラムの更なる改良と親を含めたおとなへの発信により、スマホ問題への予防啓発に努めていきたい。